

親は子どもの性格の継時的安定性をどう記述するか

-ビッグファイブへの分類と“マイペース”への着目から-

小沢哲史
(和洋女子大学)

目的

本研究の目的は、親が、子どもの異なる発達時期を通じた性格の継時的安定性をどのように理解し、記述するのかということであり、同時に、そのことが親子関係という“限局した状況”に沿ったものなのか、あるいは性格の定義としての“通状況的一貫性”に沿ったものなのかということである。

方法

調査協力者 2004年から2008年にかけて依頼した619組のうち、子ども（東海地方および関東地方の女子大学生）がビッグファイブ尺度(和田, 1996)に回答し、かつ親が調査用紙を返送した310組。
調査内容 親：「お子さんの性格で乳幼児期から、大学生の現在までで、変わらない所はどこですか」と質問し、自由記述を求めた¹。子：ビッグファイブ尺度に回答してもらった。
調査手続き 親：調査目的を説明する文書と共に、切手付きの封筒を子（大学生）に託し、返送を依頼した。子：講義中に集団式で行った。

結果と考察

<分析1> 子のビッグファイブ尺度結果による親の記述の検証

Table1 親の記述と子の性格検査結果の合致状況(*t*検定)

		ビッグファイブに沿った親の記述									
		+ 外向性	- 外向性	+ 安定性	- 安定性	+ 開放性	- 開放性	+ 誠実性	- 誠実性	+ 調和性	- 調和性
記述のべ数		54	35	33	9	22	1	56	8	92	13
子のビッグファイブ尺度得点	外向性	**	*	ns	ns	ns		ns	ns	ns	ns
	情緒不安定性	ns	ns	*	ns	ns		ns	ns	ns	ns
	開放性	ns	ns	ns	ns	ns		ns	ns	*	ns
	誠実性	ns	ns	ns	ns	ns		**	*	ns	ns
	調和性	ns	ns	ns	ns	ns		ns	ns	ns	**

注1：性格特性語に合致した場合を“+”、逆転項目の性格特性語に合致した場合を“-”とした。

注2：*：有意水準5%，**：有意水準1%，ns：有意差なし

上述の結果に対し、信号検出理論を用いて親子の一致状況を検討すると、hit:6, correct rejection:35, miss:3, false alarm:1となり、親は、親子の関わりという状況に限局されずに、子どもの性格を観察していると考えられた。ただし、親には、乳幼児期から現在（青年期）の一貫性を尋ねているのに対して、検証に用いた大学生（青年期）の性格検査結果は、“現在”のみであることから、親が、異なる発達時期まで含めて妥当に捉えているのかどうかについては今回の分析では明らかにならなかった。

<分析2> 「マイペース」の意味

調査結果において、子どものことを「マイペース」と表現することがかなりあり、「のんびり、マイペース」、「マイペースで猪突猛進」「マイペースで人の言う事を聞かない」「マイペースでやりたいことだけやる」などニュアンスが様々であった。そこで「マイペース」、「頑固、負けず嫌い」、「好きなことだけやる」の3種類に分けて、その記述があった場合となかった場合で*t*検定を行った。その結果、3種類×5因子のすべてで有意な違いは見られなかった。この結果から、親が子を“マイペース”と評する場合、子の性格の継時的安定性を捉えたというだけでなく、親の意のままにならなかった経験など、親子の関係性の記述である可能性が考えられた。

分析1と2を合わせて考えれば、親が子どもの性格を妥当に見て取っていることと、逆に親子の関係性に囚われていることの両方の側面があることが確認された。

¹ 他に、「変化が生じたところはどこですか」、「乳児期の夜泣きの状況」を質問した。